

「自分は大丈夫」なんて
思っていませんか？

どんなに思っても、「いつか」は必ずやってきます
「いつか」を想像しながら「自分の防災」を考えるイ予防災をはじめよう

伊予市 河川防災マップ はじめよう マイ防災 大谷川版



いつか起こる災害を知って、いざという時に備える

伊予市

わが家の連絡先リスト

家族の名前	生年月日	血液型	勤務先・学校名	電話番号	備考

ライフライン名	電話番号	ご近所さんのお名前	電話番号
病院()			
ガス会社			
電力会社			
水道			

日曜・祝日の救急当番医 <https://www.city.iyo.lg.jp/kenkou/krushu/kenko/kyukyuu/index.html>

いざというときの連絡先

消防(火災・救急・救助)	119	海上保安庁(海の事件・事故)	118
警察(事件・事故)	110	NTT災害用伝言ダイヤル(安否確認)	171

市役所・支所・消防署など

伊予市の市外局番は「089」

施設名	所在地	電話番号	施設名	所在地	電話番号
伊予消防事務組合消防本部 伊予消防署	下吾川 950-3	982-0119	伊予市役所	米湊 820	982-1111
中山出張所	中山町中山田 508	967-1171	中山地域事務所	中山町出淵 2番耕地 138	967-1111
双海出張所	双海町上瀬甲 5818-1	986-0074	双海地域事務所	双海町上瀬甲 5821-6	986-1111
伊予警察署	伊予市下吾川 960	982-0110	下瀬支所	双海町串甲 3670-16	987-0111

火災・救急病院の問い合わせ(テレホンサービス) 火災案内 982-8899 救急病院案内 982-5959

伊予市 制作:伊予市総務部危機管理課 〒794-1193 伊予市米湊820番地 TEL:089-982-1218 印刷:せ牛株式会社

2022年3月発行

避難先について

いざという時のために、家族で話し合って避難行動を決めておきましょう。

事前の確認

- ①ハザードマップで確認する
自宅周辺が高潮浸水想定区域に入っていないか、ハザードマップで浸水リスクを確認しましょう。避難所や土砂災害リスクのある場所もチェックします。
- ②家族会議で決めておく
どこのように避難するか、家族で話し合っておきましょう。避難先・避難ルート・誰と一緒に、何を携えていくかなどを検討します。
- ③避難シミュレーションを行う
平常の雨の日に、避難ルートを自分の足で歩いてみましょう。シミュレーションをしておくことで、有事の際に落ちついて行動できます。

避難先を考える

避難先は複数考えておきましょう。自宅の安全確保が可能な在宅避難もOKです。

市が指定した避難所に立ち退き避難

小中学校や公民館など。マスクや消毒液、体温計、スリッパなどは持参。

安全な親戚・知人宅に立ち退き避難

普段から避難することを相談して頼んでおく。(ハザードマップで安全を確認する)

安全なホテル・旅館に立ち退き避難

宿泊料が必要。事前に確認・予約する。(ハザードマップで安全を確認する)

在宅で屋内安全確保

3つの条件を満たせば在宅避難も可能

条件1

自宅等が崖崩壊等氾濫想定区域にない。伊予市では大谷川の浸水想定区域の一部にこの区域がある。

条件2

自宅等が浸水区域内にあるが、想定される浸水深より居室が高い。

条件3

水が引くまでの時間を過ごすことができる備え等が十分にある。

避難時のポイント

洪水が起こると数分で見られる浸水が深くなります。空振りになっても早めに避難しましょう。

安全に避難するために

移動時のポイントを頭に入れておきましょう。

- 子どもやお年寄りや荷物はリュックに入れて両手を自由にする。
- ヘルメット、帽子、手袋(車手)を着用。
- 水の中を歩く時は長い棒を頼りにする。足元の安全を確かめながら進む。
- 水が濁っているで見えない時は、壁も長袖、長ズボン、運動靴をきくと、中足や長つま先、水がたまりと動きにくくなる。
- 地下空間にいたらすぐ地上へ。ドアは水圧で開かなくなる。扉の外に30cm水がたまり、水圧で扉が開かなくなるので、その前に避難。
- 川や橋、がけに近づかない。できるだけ川や橋、がけから離れて避難する。ルートは日頃から確認する。
- 車は使わず徒歩で避難。交通渋滞や緊急車両を妨害し、浸水時はエンジンラブルで立ち止まってしまうため。
- 切れた電線に触らない。切れた電線や垂れ下がった電線は、感電のおそれがあるため、触らない。近づかない。
- 家を出る前に火の元等の確認。ガスの元栓を閉めてブレーカーを落とす。カギをかけて避難先のメモを残す。

避難の心得

- 避難時の心構えをおさえておきましょう。
- その1 正確な気象情報収集する
テレビ・ラジオ、防災行政無線などから正確な情報を集める。
 - その2 自主的に早めに避難する
聞く前や騒音になる前に、早めの自主避難を心がける。
 - その3 単独行動はしない
必ず二人以上で、動きやすい服装で行動。
 - その4 無理をしない
逃げ遅れたら、無理をせずに、高い所で命を守る行動。
 - その5 協力しあって避難する
日頃からコミュニケーションを大切に。隣近所に声をかけあって避難する。地域のご自力で避難できず支援を必要とする人がいるから、できるだけ把握しておく。

大雨や台風接近時の注意

- 貴重品や電気製品などを高い所へ移す
- 田んぼや畑、用水路の点検
- 洗濯やお風呂の排水を控える
- 排水溝や雨水ますの水が溢れるように
- 冠水道路に車進入しない

洪水の基礎知識

近年、前線の停滞による大雨やゲリラ豪雨のために各地で頻発に洪水が起こっています。

洪水の種類

洪水とは大量の水があふれ出すことで、「河川氾濫」と「内水氾濫」に分けられます。

河川氾濫

大雨のため大きな河川が増水し、水が堤防を破壊したり堤防を越えたりしてあふれること。大量の水が勢いよく流れるので、住宅の倒壊や人的被害を引き起こします。

内水氾濫

市街地に多量の雨が降り下排水や水路の処理能力が追いつかず、下水道やマンホール、水路から水があふれ出すこと。土地や建物が浸水するので浸水害と呼ばれることも。

大雨になったら水位情報を確認しよう

河川水位、氾濫危険水位、避難開始水位、氾濫注意水位、氾濫断水水位、ふだんの水位

都市型水害について

排水機能の不全が原因で起こる内水氾濫はとりわけ都市部で発生します。市街地はコンクリートやアスファルトで覆われ雨が地中に浸透しないため、水が一気に水路や下水道に集まるからです。地下などの低い場所や中小河川も注意が必要です。

アンダーパスでの事故

アンダーパスが大雨に浸ることで、道路が冠水して進入した車はエンジンが水で止まって立ち止まり、水圧でドアが開かない危険があります。

過去に内水氾濫の起こった場所

排水処理能力に余裕が必要な場所なので、再び浸水のおそれがあります。

避難情報・風雨の目安

防災気象情報の種類と内容・避難情報を知っておきましょう。

避難のタイミングを伝える

市町村は、雨や河川の情報のほか地域の土地利用や災害実績などを踏まえて、総合的に避難情報(警戒レベル)を発令します。気象情報などで早めに自主避難を行い、避難情報が確実に避難しましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 命の危険を直ちに安全確保	災害が発生、切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	緊急安全確保(伊予市が発令)	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 速やかに避難場所から安全確保	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と認められる場合は、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(伊予市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 高齢者等避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など、避難に困難がある方とご家族は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難(伊予市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2 避難に備え	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報(気象庁が発令)	大雨注意報 など 早期注意情報(気象庁が発令)
警戒レベル1 災害への心構えを高めます。			

大雨に関する気象庁からの注意報・警報

- 大雨・洪水注意報 → 大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
- 大雨洪水警報 → 大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
- 大雨特別警報 → 台風や集中豪雨により過去十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までには避難することが必要です。

雨の強さと被害

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴゴと雷が轟く)	思わなくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人の影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	命を失ってしまうおそれがある	命を失ってしまうおそれがある	命を失ってしまうおそれがある	命を失ってしまうおそれがある
屋内(水害を想定)	雨音が話し声が聞き取りにくい				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。				
車に乗っている	ワイパーを速くしても視界が暗くなる				

浸水の高さを確認

浸水のリスクを事前に知り、いざというときにあわてず安全に避難できるように備えましょう。

浸水深の目安

自宅や職場、学校が浸水想定区域かどうか、その区域なら浸水深はどれくらいか確認しておきましょう。

5.0～10.0mまでの浸水

- 2階の屋根以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

3.0～5.0mまでの浸水

- 2階の屋根まで浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

0.5～3.0mまでの浸水

- 2階の床下まで浸水
- 1階部分で浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

0.5m未満の浸水

- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ以上になると、歩行は危険

情報収集と家族の連絡方法

災害後、正しい情報をいち早く手に入れることが重要です。情報の入手方法を事前に知っておきましょう。

情報の入手方法

複数の方法での情報入手を普段から利用しておきましょう。

- ①メール配信
緊急速報メール、エリアメール(事前登録不要)
携帯電話での災害時専用の情報発信。緊急時発生する緊急地震速報が一斉配信される。
- ②テレビ・ラジオ
テレビ(災害情報共有システム)を通じて、テレビラジオで伊予市が発する災害対策本部の設置、避難所の開設、避難指示などの情報を放送。災害の心配があるときは、テレビラジオをいつでもチェックできる。
- ③伊予市公式SNS
過去の災害でTwitterやLINEは比較的取りやすかったという声がある。情報収集方法の一つとして活用。
- ④伊予市公式LINE
令和4年2月から伊予市公式LINEがスタート。災害時の緊急情報やほか、道路や河川等の異常を報告できるメニュー。
- ⑤伊予市防災行政無線
災害発生時に150ヶ所の防災スピーカーから防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合は、携帯電話で確認できる。
- ⑥スマホアプリ
信頼できる情報を自分で手で行き先で確認できる。Yahoo!防災速報、防災情報、自治体からの緊急情報もリアルタイムで通知する。
- ⑦広域車
市有車両や消防用車両によるマイク放送。
- ⑧メール配信
災害発生時に150ヶ所の防災スピーカーから防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合は、携帯電話で確認できる。
- ⑨防災行政無線
災害発生時に150ヶ所の防災スピーカーから防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合は、携帯電話で確認できる。
- ⑩防災行政無線
災害発生時に150ヶ所の防災スピーカーから防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合は、携帯電話で確認できる。

家族との連絡の取り方

非常時の連絡方法を複数確保するようにしておきましょう。あらかじめ家族で下記の連絡ルールを決めておくことが大切です。

- 集合場所・避難場所
- 災害時の連絡手段
- 災害時の連絡手段
- 災害時の連絡手段

【災害用伝言サービス】
災害発生時に自宅にいない場合は、災害用伝言サービスを利用する。災害発生時に自宅にいない場合は、災害用伝言サービスを利用する。